

岸和田市立図書館 図書館基本計画策定に向けて

※館長試案
令和3年10月16日現在



計画策定の趣旨

これからの図書館が果たすべき役割や提供すべきサービスを明らかにし、それを担うために必要となるハードウェア、ソフトウェア整備の方向性を示す。

【背景】 図書館本館の老朽化 ➡ 施設更新を見据えた「これからの図書館」を考える必要性

図書館が担う仕事（図書館法第3条）

- 図書館は、図書館奉仕のため、土地の事情及び一般公衆の希望に沿い、更に学校教育を援助し、及び家庭教育の向上に資することとなるように留意し、おおむね次に掲げる事項の実施に努めなければならない。
- 一 郷土資料、地方行政資料、美術品、レコード及びフィルムの収集にも十分留意して、図書、記録、視聴覚教育の資料その他必要な資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によつては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下「図書館資料」という。）を収集し、一般公衆の利用に供すること。
 - 二 図書館資料の分類排列を適切にし、及びその目録を整備すること。
 - 三 図書館の職員が図書館資料について十分な知識を持ち、その利用のための相談に応ずるようにすること。
 - 四 他の図書館、国立国会図書館、地方公共団体の議会に附置する図書室及び学校に附属する図書館又は図書室と緊密に連絡し、協力し、図書館資料の相互貸借を行うこと。
 - 五 分館、閲覧所、配本所等を設置し、及び自動車文庫、貸出文庫の巡回を行うこと。
 - 六 読書会、研究会、鑑賞会、映写会、資料展示会等を主催し、及びこれらの開催を奨励すること。
 - 七 時事に関する情報及び参考資料を紹介し、及び提供すること。
 - 八 社会教育における学習の機会を利用して行つた学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励すること。
 - 九 学校、博物館、公民館、研究所等と緊密に連絡し、協力すること。

図書館に関わる市の計画等

- 岸和田市まちづくりビジョン（総合計画）
図書館に関わる、岸和田市の「目標が達成された姿」
 - ・生涯学習に取り組む市民が増えている
 - ・子どもが個性や能力にあった教育を受けている
 - ・子どもが感受性や社会性を身につけている
- 岸和田市教育大綱
 - ・利用しやすい図書館サービスの提供と施設の整備
 - ・子どもが読書に親しむ環境の充実
- 岸和田市生涯学習基本方針
「学び+実践+ネットワーク」＝学習活動と社会的課題の解決をめざす実践との連動と、活動グループの相互連携
- 岸和田市公共施設最適化計画
 - ・他機能との連携により施設機能の充実を図る
 - ・指定管理者制度など民間活力導入の検討
- 岸和田市子ども読書活動推進計画
「読書が好き」な子どもの割合が全国平均以上となることを目指す

市民ニーズ

- 市民意識調査
重点を置くべき施策
 - ・子どもが個性や能力にあった教育を受けている
 - ・子どもが感受性や社会性を身につけている
- 利用者アンケート（令和2年10月）
 - ・喫茶スペースや人との交流など「滞在型図書館」へのニーズの高まり
 - ・「視聴覚資料」「本の探しやすさ」の強化
- 議会（平成29年度政策討論会提案書）
「単に図書の貸し出しを中心とするだけでなくそれ以外の利用方法を作り出してもっと多くの市民に利用してもらおうようにすべき」
- これまでの実践の取り組み
 - ・従前から「図書館まつり」、近年は「ブックフェスタ」⇒「本」を通じて人が交流する取り組みが定着



図書館をとりまく環境

「活字離れ」「デジタル機器の普及」
「少子高齢化と人口減少」⇒ 貸出冊数の減少

図書館の役割の再定義が必要

岸和田市立図書館の課題

- 施設の老朽化と収蔵スペースの枯渇
- 正規職員の司書採用の途絶
- 多様化、高度化する市民ニーズへの対応
- 学校教育との連携強化
- 図書館ネットワーク（分館・自動車文庫）の見直し
- 市の魅力・財産である郷土資料の活用
- 市民参画や交流の場と機会の充実

「岸和田市が目指す図書館像」の構築





図書館ミーティングでの意見

- 多岐にわたる資料がある図書館なのだから、多岐にわたる機能が集まった複合施設が望ましい。
- これまでの概念にないような施設と一緒に、いろんな世代の人が共に集える場に。
- 多様な視点をもって人が“対話”することでの互いの気づきなどが重要。“しゃべり場”“読書会”などがあれば。
- 例えば商店街の中にA棟・B棟などと点在させることで、人の回流を起こせないか。

目指す図書館像

目指す図書館像①

市民の多様な興味・関心に応え、市民の活動を支える図書館

乳幼児から高齢者まですべての市民の生涯学習の拠点として、日常のくらしや仕事、まちづくりなど、市民と地域の課題解決に役立つ資料や情報、学習の場を提供する図書館

⇒様々な分野の資料を収集・整理し、人と情報をつなぐ図書館の基本業務

目指す図書館像②

ICTを活用した便利な図書館

新しい技術を積極的に取り入れ、資料のICT化や、業務のICT化に対応した図書館

⇒電子書籍やオンラインコンテンツ、ICタグ管理など、市民も職員もICTの恩恵を享受



目指す図書館像③

ネットワークを支えるハブ図書館

本館・分館のサービス網に加え、学校や他の公共施設間のネットワークのハブとなる図書館

⇒市民の生涯学習の基盤として、学校支援や生涯学習施設との連携に取り組むほか、複合施設化を見据えた他課、他施設との連携強化

目指す図書館像④

「世界に一番近い城下町」にふさわしい図書館

先人が築いた有形無形の文化を蓄積・継承するため、地域資料を収集・保存し、発信する図書館

⇒「岸和田らしさ」を見せ、シティセールスやシビックプライド醸成につなぐ、岸和田オリジナルの図書館

目指す図書館像⑤

「本」を通じた学び・出会い・つながりの場を創出する図書館

誰もが気軽に立ち寄れる施設の特性を生かし、一人でもグループでも「何かやりたい」を実現するとともに、「何かやりたい」人がつながれる図書館

⇒社会教育施設の本領を発揮



目指す図書館像⑥

オープンで誠実に、市民と一緒に作る図書館

すべての市民に開かれ、参加する機会を保障する図書館

⇒自治基本条例の「市民自治都市」を体現

目指す図書館像を支えるハードウェア

本館

他の分野の施設と複合化することで、それぞれの施設が単独ではできなかった機能を互いに補完し、複数の機能を有機的に連携・融合することで互いの機能を最大限に発揮する。

それにより、人の交流や市民ネットワークを生み出し、新たな価値を創造・発信するとともに、より集客力の高い施設としてにぎわいを創出する。

分館

市民センターと併設となっている現状を踏まえ、他の施設との連携や5分館の役割分担を図り、効率的・効果的な運営を図る。

⇒「子ども」「歴史・郷土資料」「ビジネス」「農業」等、館ごとの役割分担により蔵書の整理を図る

自動車文庫

本館と分館、他施設との物流を担い、図書館ネットワークを支える。

⇒自動車文庫の役割を、「来館困難な方へのアクセス保証」から「子どもたちが本に出会い、本に親しむ機会の創出」と再定義。

「来館困難な方へのアクセス保証」として、宅配サービスや電子書籍を整備。



「商業施設などの産業系施設」
「子ども園などの子育て支援施設」
「他の生涯学習施設」との複合施設化を目指す

